

令和元年度 茨城県立農業大学校評価表

評価基準(達成度)	
A	100%以上の達成
B	80～99%の達成
C	60～79%の達成
D	40～59%の達成
E	39%以下の達成

重点目標	1 入学生の確保	③ 進路指導の充実
	2 教育内容の充実・強化	4 学生の自治会活動の活性化

重点目標番号	現 状	課 題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績 ※()は前年度実績	達成度	次年度の課題と改善策	関係者評価委員会からのコメント
3	<p>1 進路指導は担当者を定め、クラス担任と一緒に学生の希望に沿って就農、就職、進学に応じて相談指導を行っている。</p> <p>2 非農家出身の学生の増加に伴い、就農の形態は自営就農に加えて、農業生産法人への雇用就農が増加している。</p> <p>3 過去5年間の平均就農率は51.0%である。また、進路決定率は96.7%である。</p>	学生の就農率及び進路決定率の向上を図る。	1 就農率	<p>1 就農意識を高めるための農業経営士、青年農業士等による意見交換会等の実施 (1)【継続】授業の一環として、農業経営士等との意見交換会及び就農相談会を開催(目標:2回)。</p> <p>(2)【継続】農業経営士等先進農業者による特別講義、現地見学・研修会を開催(目標:2回)。</p> <p>(3)【継続】学生の就農意欲を醸成するため、就農事例集を活用配布。</p> <p>2 市町村と連携した就農支援の充実 (1)【継続】学生の就農意識を醸成させるため、市町村が開催する体験研修等へ参加(目標:3回)。</p> <p>(2)【新規】具体的な就農のイメージを醸成するため、県内市町村担当者によって、定住を含めた「就農に関する市町村の支援策」等に関する説明会を実施(目標:2回)。</p> <p>3 農林振興公社、農業法人協会等と連携した雇用就農支援の充実 (1)【継続】関係機関との連携により、農業法人の求人情報を把握するとともに、学生へ周知徹底。</p>	<p>(1)5/27 に農業経営士による就農相談会を、農業部養成課程1、2年生を対象に実施した。12/13 及び 12/16 に、1年生を対象に2回目の就農相談会を実施した(農業部、園芸部)。</p> <p>(2)5/27 に保田農業経営士による特別講義を実施した。</p> <p>(3)農大卒業生の就農事例集を作成した。</p> <p>(1)茨城県が主催する協議会活動の一環として、町内酪農家への派遣実習1名を実施し、1年生を対象に校外学習を実施した(10/28)。</p> <p>(2)常陸太田市、水戸市、茨城県等市町村の就農支援について、PR 紹介を実施した。</p> <p>(1)農林振興公社HP掲載情報を就職掲示板に随時掲示、周知を図った。</p>	A	<p>(1)【継続】農業経営士等との意見交換会及び就農相談会を開催。 ・事前に学生の就農意識の向上を喚起し、現実感を持った相談会とする。</p> <p>(2)【継続】農業経営士等先進農業者による特別講義、現地見学・研修会を開催。</p> <p>(3)【継続】学生の就農意欲を喚起、誘導するため就農事例収集の充実。</p> <p>(1)【継続】市町村が開催する体験研修等の情報収集。</p> <p>(2)【充実】合同説明会等、市町村との調整により開催を検討。</p> <p>(1)【継続】関係機関との連携による農業法人の求人情報の把握と学生への周知による雇用就農支援。</p>	・農大生の農業に取り組む意欲(非常に大きな魅力となる)を、インターンシップや実習において農家の方々に見せることが大事である。また、先生方も、継続的に、農大生にそのことを伝えていく必要がある。

重点 目標 番号	現 状	課 題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績 ※()は前年度実績	達 成 度	次年度の課題と改善策	関係者評価委員会からのコメント
3			1 就農率	<p>(2)【継続】農業法人に係る理解や就職の啓発、農業法人就職希望者と法人とのマッチングを図るため、合同就農促進講座・就農相談会(プレ農業人フェスタ)を開催するとともに、新農業人フェア等へ参加(目標:4回)。</p> <p>(3)【継続】単位制度を利用した、農業法人等でのインターンシップを推進。</p> <p>(4)【継続】学生の進路希望動向を把握・助言するため、進路指導セミナーや個別面談を実施。また、就職を希望する学生に対して、ハローワークによる模擬面談を実施(目標:2回)。</p> <p>(5)【継続】就農を希望する学生が、経済的に不安なく農大で学べるよう、農業次世代人材投資事業(準備型)の活用を支援。また、給付により進路が狭まらないよう、受給希望者に詳細に事前説明を実施。</p> <p>(6)【継続】雇用就農を希望する学生の指導に活用するため、農業法人就職者の追跡調査を実施。</p> <p>4 就農後の支援</p> <p>(1)【継続】就農予定者、就農者の情報を各地域農業改良普及センターに提供。</p> <p>○就農率50%以上</p>	<p>(2)6/27 にプレ農業人フェスタを開催し、農業部及び園芸部の全学生が参加した。7/20 に農林振興公社主催の第1回新農業人フェアに参加した(学生3名)。12/7 に第2回新農業人フェアで、希望就農先への就農相談会に参加した(学生3名)。</p> <p>(3)夏休み期間中に、道の駅ひたちおおたで2名、山梨県の農業法人で1名、福島県の農業法人で1名、県内果樹農家で3名がインターンシップに参加した。</p> <p>(4)7/5, 7/8 及び 7/11 に、2年生を対象として、ハローワークによる模擬面談を実施した。また、1/21 及び 2/21 に、1年生を対象とした就職講座を実施した。</p> <p>(5)H30 年度からの継続者は6名(農業部2年生5名、研究科1名)である。県(農業経営課)の意向により新規希望者に対しては、6月に事前に希望者をリストアップ、説明を実施(参加者:1年生10名、研究科1名)したが、7/31の事前審査では3名が面談審査されたが、不採択の決定がなされた。</p> <p>(6)農業法人就職者の追跡調査(31年3月卒業生と卒業後4年後の卒業生)を実施した。この調査を取りまとめ分析したデータは蓄積して、次年度雇用就農する学生に活用する。</p> <p>(1)令和2年2月までに、就農予定者、就農者の情報を各地域農業改良普及センターに提供した。</p> <p>○令和2年3月23日現在 就農予定率 64.6 %</p>		<p>(2)【充実】合同就農促進講座・就農相談会(プレ農業人フェスタ)の開催や新農業人フェア等への学生参加者の拡大を図り、農業法人に係る理解と就職希望者と法人とのマッチングを実施。</p> <p>(3)【充実】法人就農を志望する学生に対し、長期派遣実習先の選定をはじめとし、様々の機会を活用した農業法人等でのインターンシップへの参加推進。</p> <p>(4)【継続】進路指導セミナーや個別面談を実施し、学生の進路希望動向の把握と助言を実施。また、就職を希望する学生に対して、ハローワークによる模擬面談を実施。</p> <p>(5)【見直し】採択要件が厳しくなっていることから、就農意欲、準備体制が整った2年生のみを対象とし、1年間のみの申請も検討。</p> <p>(6)【継続】卒業生を対象とした、フォローアップ研修の開催検討。 併せて、農大卒業生の就農定着状況を調査。</p> <p>(1)【継続】各地域農業改良普及センターへの就農予定者、就農者の情報提供。</p>	<p>・県内の農業法人では、将来経営者の右腕になる人材を求めていることから、農大生もインターンシップを大いに活用して、農業法人に就農するようにしてほしい。</p>

重点 目標 番号	現 状	課 題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績 ※()は前年度実績	達 成 度	次年度の課題と改善策	関係者評価委員会からのコメント
3			2 進路決定率	<p>1 進路指導計画に沿った就職支援活動の強化</p> <p>(1)【継続】インターネットの活用やこれまでに求人のある企業への確認により、学生が希望する業種の求人情報の収集と学生への提供、職場体験を実施(随時)。</p> <p>(2)【継続】早期の進路決定を促進するため、1年生を対象に、就職セミナー(2月)や進路希望調査(2回)、就職が決定した2年生による就職準備や受験概要などのレクチャーを実施。</p> <p>(3)【継続】3者面談時と長期休暇後に、進路希望・就職活動状況調査を実施し、活動状況を把握するとともに、適切な進路指導を実施。</p> <p>(4)【継続】年度当初に進路指導計画を策定し、学生指導を推進。</p> <p>(5)【継続】就職者・進学者から試験内容等の報告書を提出させ、次年度以降の指導に活用。</p> <p>(6)【継続】農大HPIに相談コーナーを設けて、既卒者を対象に個別相談を行い、希望者には就職情報を提供(随時)。</p> <p>(7)【継続】進路相談室を充実させ学生に活用させるため、就職活動に必要な図書等を新たに導入。</p> <p>○進路決定率 100%</p>	<p>(1) インターネットや過去に求人の実績績があった企業等への確認により、学生が希望する業種の求人情報の収集と学生への提供を実施した(随時)。4/22及び4/24に校内会社説明会を実施した(農機具メーカー1社、ホームセンター関係1社、農研機構)。12/20に未内定者を対象に企業説明会を開催した。</p> <p>(2)4月に進路意向調査及び就職活動調査を行い、これらの結果に基づき、学生に対して就職指導を実施した。10月に半年経過後の意向調査を実施するとともに、1/21に就職セミナーを開催した。</p> <p>(3)3者面談を、農業部では、6月に2年生を対象に、7月に1年生を対象に実施した。園芸部では、7月に1年生を対象に実施し、10月に2年生を対象として実施した。</p> <p>(4)H31.4月に進路指導計画を作成した。</p> <p>(5)就農の内定者に対して報告書の提出を指導し、年度末までに取りまとめた。</p> <p>(6)農大の既卒者に対して、要望に対応した就職情報を提供した。</p> <p>(7)公務員、企業就職等へは、既存資料で対応した(3名)。</p> <p>○令和2年3月23日現在 進路決定率 100%</p>	B	<p>(1)【継続】これまでに求人のある企業への確認やインターネットの活用により、学生が希望する業種の求人情報の収集と学生へ提供を実施。</p> <p>(2)【充実】早期の進路決定を促進するため、1年生を対象として、就職セミナーや進路希望調査、就職が決定した2年生による就職準備や受験概要などのレクチャーを実施。 また、就職活動の早期開始の喚起、各学科・各専攻コース内での個別面談等を充実。</p> <p>(3)【継続】3者面談時と長期休暇後に、進路希望及び就職活動状況調査を実施し、活動状況を把握するとともに、適切な進路指導を実施。</p> <p>(4)【継続】進路指導委員会において次年度の就職活動に沿った進路指導計画を作成し、学生指導を推進。</p> <p>(5)【充実】就職試験(試験、面談内容等)報告書の充実。</p> <p>(6)【継続】既卒者を対象に個別相談を行い、希望者には就職情報を提供。</p> <p>(7)【継続】学生の要望を把握し、必要に応じ就職活動等に関する新たな図書等を購入。</p>	